

「媛小春」の特性について

果樹試験場では愛媛県の気候風土に適した優良なカンキツ新品種の育成を目指して、交配を行っている。

このたび、1月中旬～2月中旬に成熟する爽やかな風味のある「媛小春」を育成し、種苗法に基づき種苗登録申請を行った。

「媛小春」は、平成6年に「清見」の花に「黄金柑」の花粉を交配し、平成11年に一次選抜し、平成15年からは県内の産地で試験栽培を行い育成した。

樹勢は強く直立した樹姿となるが、枝先は下垂する。若いうちはトゲの発生があるが、結実を始めると徐々に消失してくる。葉は細長く、葉身が波打ったようになり翼葉は痕跡がある程度である。花は単生で小さく、葯が退化しており花粉は発生しない。樹齢が若いうちは枝梢の生育が旺盛

なため花が少なく、結実性が劣る傾向にある。

果実の大きさは150g程度で、果形は扁球形で果梗部にネックを生じる場合が多い。果皮の色は鮮黄色で、手で簡単に剥くことが出来る。じょうのう（袋）、肉質も柔軟多汁で爽快な風味がある。種は通常は入らないが、近くに花粉の多い他品種があると種子が入る場合がある。

果実品質は、2月中旬で糖度12～13度、クエン酸1%程度となる。寒風や降雪により果皮障害が発生することがある。

早ければ平成20年春には許諾手続きを経て母樹用健全種苗を供給できるものと考えている。

(育種班 主任研究員 重松幸典)



写真1 「媛小春」の結実状況

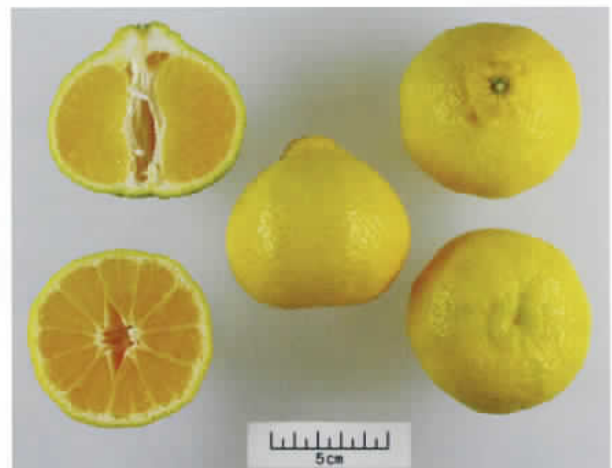


写真2 「媛小春」の果実

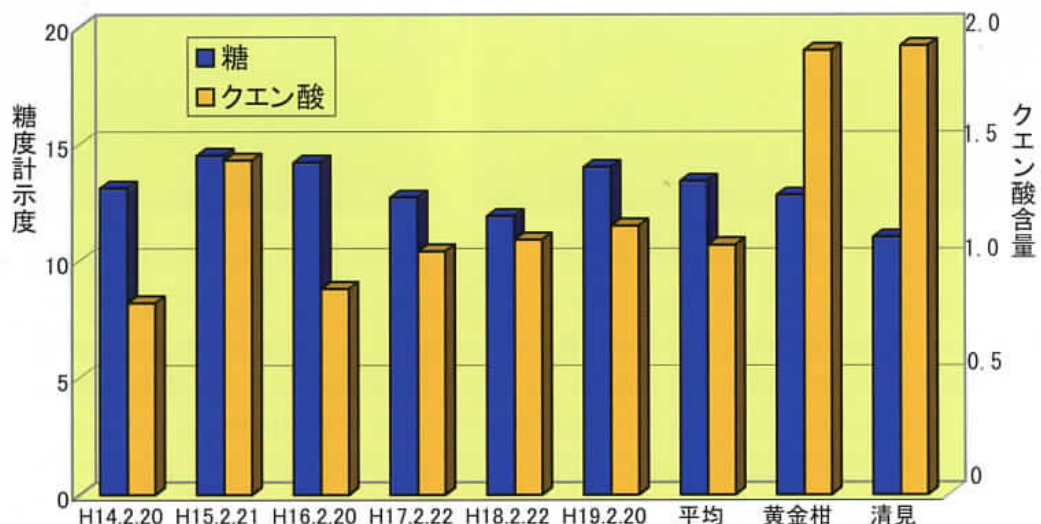


図1 「媛小春」の果実品質